仏教解釈論（下）
すべては悟りの契機

柳　幹康

まず最初に次の一節をご覧ください。

森羅万象はみな一様に仏の名を伝えており、その姿を明かさぬものは一つたりとも存在しない。巌の木や庭の莎は無限の素晴らしい悟りの世界を指し示し、猿の鳴き声や鳥のさえずりはみな仏と同じように絶対の真理を説き明かしている。

（『唯心訣』）

これは延寿の『唯心訣』（一切は唯だ心の現れに過ぎないことを示す要訣）という著作のなかに見える一段です。切り立った崖に生える樹木や庭に咲く草花、耳に響く猿の鳴き声や鳥のさえずり、こういったありとあらゆるものがみな真理を説き示しているのだと延寿は言います。このいかにも禅的で不思議な言葉の背後には、どのような理解が潜んで

いるのでしょうか。今回は、森羅万象（ありとあらゆるもの）を等しく悟りの契機と看做す延寿の仏教解釈論に迫ります。

そもそも仏教徒にとって真理とは、お釈迦様がお悟りになったものであり、それを私たちに説き示してくださったのが仏説（仏が説いた教え）なのでした。そこで歴代の学僧たちは仏説を分析しそこから真理を読み取ろうとしてきたわけですが、禅の法を伝える延寿は、仏説のみならず森羅万象すべてが真理を指し示しているのだといいます。その理由を端的に記したのが『註心賦』という延寿の別の著作に見える次の一節です。（この本は延寿が自分で詠んだ『心賦』（心の賦）に対し自分で注釈を加えたものです。）

大地を的として矢を射れば百発百中で外れることがないように、心を観る者からすれば眼前のものはみな例外なく心であり、わずかたりとも隔たることはない。

（『註心賦』巻二）

このままでは少し分かりにくいように思われますので、以下その主著『宗鏡録』の書名に用いられる鏡を譬喩に、いささか説明を加えたいと思います。

まず想像していただきたいのですが、一枚の鏡を胸の前にもって、右から左へぐるっと回していくとします。そうすると当然ながら、鏡には色々なものが映り込んでは消えていきますね。一切をありのままに映しだし、かつ何ら痕跡を留めない鏡――それはあたかも私たちの心のようだと延寿は言います。鏡に木が映り草花が映っていくように、心にも木や草花が映じ、それを認識していきます。すべての認識はみな心のうえに生じるもの

であり、心はあらゆる認識を根底で支えるものですから、それを「宗の鏡」というわけです。

もうひとつ想像していただきたいと思います。ご自身の顔を鏡に映して見る時のことを思い浮かべてください。普段は鏡に映った自分の顔しか気にしていないと思いますが、その際当然ながら鏡に映る顔と同時に、鏡そのものをも見ているわけです。それと同じように、私たちが木や草花など様々なものを目にする際、実はそれを映じる自分の心そのものをも見ているのだと延寿は考えます。このような心に照準をあわせれば、眼前の物はもとより、耳に聞こえる音や肌で感じる暑さ寒さなど、およそ認識の対象となるもの全てが自心を看取する契機となるわけです。なぜなら心はあらゆる認識を支える基盤であり、すべての認識の根底には心が潜んでいるからです。

このように考えた時、先の引用文の「心を観る者からすれば眼前のものはみな例外なく心」という一節もすんなり理解できると思います。そして「巌の木や庭の莎」、「猿の鳴き声や鳥のさえずり」が真理を説き示すという一見不可解な冒頭の説も、もはや怪しむに足りないことでしょう。一切を鏡のようにありありと映しだす宗の心――これこそが延寿のいう「森羅万象が等しく指し示す真理」であり、延寿が人々に気づかせようとしたものだったのです。

柳 幹康（やなぎ みきやす）
一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究――一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、
各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。
＊〆切りは毎月1日です。

花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。
お待ちしております。

送り先
〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園　係

＊住所、氏名を必ずお書きください。
＊俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)
＊なお投稿はお返しいたしません。

花園 hanazono 「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花　園】第67巻 第8号(通巻第792号)
平成29年8月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
【発行人】栗原正雄
【編集人】畠中寿浩
【印刷人】喜田眞司
【発行所】〒616-8035　京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵　「あっ！」

水中で紙をゆらゆらさせながらそ～っと…
「パシャン！」水音とともに縁日の雑踏が
戻ってきます。　絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…… http://www.myoshinji.or.jp
臨黄ネットワーク(臨済宗・黄檗宗全般)…… http://rinnou.net

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

＊乱丁、落丁本はおとりかえいたします。